

2021世界アルツハイマーデー記念オンライン講演会

令和3年度 鹿児島県認知症ケア専門士会

第2回単位認定研修報告

【第一部】

アルツハイマー型認知症 Up-To-Date

公益社団法人いちょうの樹 メンタルホスピタル鹿屋 副院長
精神保健指定医
認知症サポート医

佐藤 壮司先生



【第二部】

面会制限が認知症の人と家族に与えた影響

医療法人大誠会 内田病院
看護部 認知症看護認定看護師
小池 京子先生

1994年「国際アルツハイマー病協会」(ADI)は、世界保健機関(WHO)と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に認知症の啓蒙を実施しています。また、9月を「世界アルツハイマー月間」と定め国内においては様々な取り組みを行っています。

鹿児島県認知症ケア専門士会も通常の単位認定研修とは違い、一般参加の方々と共に認知症について学び、認知症ケア専門士のことを知っていただける機会を毎年企画しており、今年も当初は集合研修とZoomによるハイブリッド研修を企画しておりました。しかし新型コロナウイルス特別措置法に基づく「まん延防止等重点措置」の鹿児島県への適用延長が決定。公共施設への利用や入場者制限などの要請もあり、感染拡大防止の観点からも今年はZoomのみのオンライン研修の開催とさせていただきます。

第一部は佐藤先生をお招きしての講演でした。「認知症」の基礎知識から病態、検査、治療、危険因子と予防まで最新の情報を分かりやすくご説明していただきました。アルツハイマー病の治療薬としては約20年ぶりに米国で承認され話題となっている「アデュカヌマブ」についても詳しくお話していただきました。様々な最新情報に「今はこういった検査や予防法があるんだ」と学ばせていただきましたが、一番印象に残ったのは「エビデンス」についてです。コロナ禍において「エビデンス」という言葉が急速に広まり、テレビや本、インターネットで健康・医療に関する数多くの情報を入手することができるようになりました。しかし根拠のハッキリしない情報を発信している人も多く、そういった情報に影響を受ける方も数多くいることが近年よく騒がれている現象のひとつになっています。そうした不確かな情報に影響されずバイアスをきちんと排除できたより確実なエビデンスに基づいた治療、ケアを見極めることが大切だと学びました。

第二部は小池先生をお招きしての講演でした。先生が所属される群馬県の大誠会グループでは認知症の人と家族を支える「大誠会スタイル」を実践され、パーソン・センタードケアを基本とした身体拘束ゼロ、脳活性リハ5原則による認知症ケアなど通じ、残存能力の活用していくことでBPSDの軽減や認知機能の維持・低下抑制につながり、愛あふれる「慈宅」(じたく)に帰れるまでの取り組みについてお話して頂きました。感染防止対策によって面会制限下における家族の想いを受け止め、患者様が『普段の当たり前の日常生活』に少しでも近づけるためのすべての援助行為『アクティビティ・ケア』をどう展開していくか、多職種からチームを結成した認知症サポートチームの活動について包括的なケアの重要性を学ぶ事ができました。質疑応答では参加者様の父親が入院してしまい、会いに行ってもいいのかなど入院したことについての悩みや葛藤などのお話を聞く事ができました。私たちは「患者様に看護・介護を提供する」立場であると同時に「家族を看護・介護する」当事者にもなる時代であります。患者様はもちろん、家族の方々にもどう寄り添っていけるか深く考えさせられる有意義な研修となりました。

今回の研修が少しでも認知症の方のためにご尽力されている皆様のお仕事の後押しになれば幸いです。研修に参加されました皆様、お疲れ様でした。